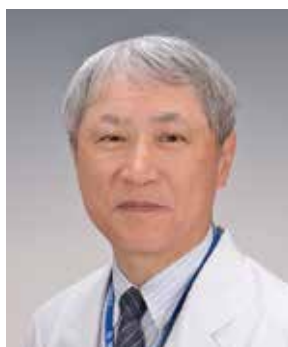


特別講演



いつまでも一途一心 今、医師はどうあるべきか？

順天堂大学医学部・大学院医学研究科心臓血管外科学講座教授
順天堂大学医学部附属順天堂医院院長

天野 篤
Atsushi Amano

略 歴

- 1983年 日本大学医学部卒業
- 1983年 NTT関東通信病院(臨床研修)
- 1985年 亀田総合病院心臓血管外科(レジデント、医長)
- 1991年 新東京病院心臓血管外科(科長、部長)
- 2001年 昭和大学横浜市北部病院循環器センター長(教授)
- 2002年 順天堂大学医学部心臓血管外科学講座(教授)
- 2016年 順天堂大学医学部附属順天堂医院院長

学会・専門医

日本外科学会、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、
日本冠動脈外科学会、日本臨床外科学会、米国STS国際会員、米国胸部外科学会正会員など
日本外科学会指導医、日本胸部外科学会指導医、日本心臓血管外科学会専門医、
日本循環器学会専門医など



2018年から新専門医制度が始まるが、外科の志望者は相変わらず少なく、地方ではさらに顕著である。2012年2月に冠動脈バイパス術を受けられた今上天皇陛下は順調に回復され、その後国民と共にある元気なお姿を全国各地で示されたことは記憶に新しく、洗練された医療が社会貢献につながっているということを再確認出来た。このように医師は日常の中で自分の手がけた治療が対象患者を越えて周囲を良い方向へ導くことを経験しているはずである。しかし、そこに至るまでに臨床・教育・研究などをバランス良く自己管理するだけでなく、最近では医療安全の遵守、エビデンスに基づく医療の知識、チーム医療の充実が求められる。またこういった内容の充実がないと専門的評価や社会からの評価などが得られず、患者さんの信頼も得られない。つまり、これらはそれぞれ臨床医として自立するために必要不可欠である。

今回は自分自身を検証し、次世代の外科医を増やせるのか、また若手が目指すGoalを向いているかどうか、問題提起してみたい。